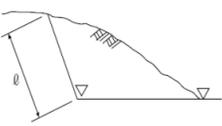
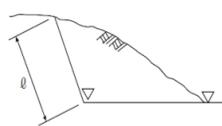
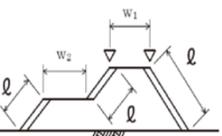
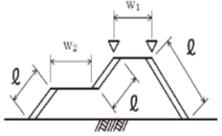
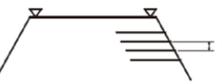
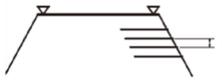
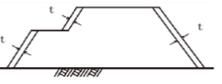
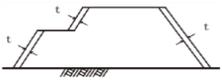
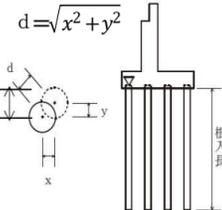
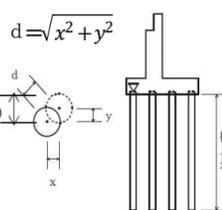
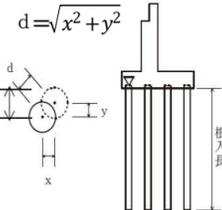
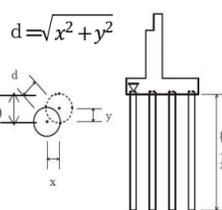
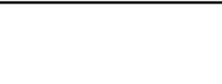


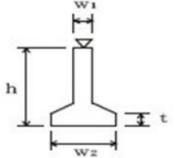
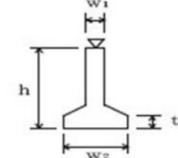
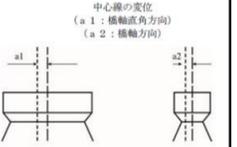
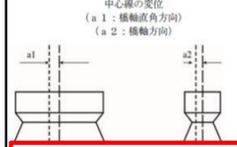
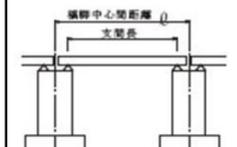
出来高管理基準及び規格値(案)

令和5年版										令和6年版										改定理由		
単位: mm										単位: mm												
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	改定理由
1 共通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	2		掘削工	基準高▽	±50	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は各法層で測定。		1-2-3-2	1 共通 編	2 土 工	3 河 川 土 工 ・ 海 岸 土 工 ・ 砂 防 土 工	2		掘削工	基準高▽	±50	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は各法層で測定。		1-2-3-2	誤植修正
						法長ℓ	ℓ<5m -200 ℓ≥5m 法長-4%										法長ℓ	ℓ<5m -200 ℓ≥5m 法長-4%				
1 共通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	3		盛土工	基準高▽	-50	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は各法層で測定。		1-2-3-3	1 共通 編	2 土 工	3 河 川 土 工 ・ 海 岸 土 工 ・ 砂 防 土 工	3		盛土工	基準高▽	-50	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は各法層で測定。		1-2-3-3	誤植修正
						法長ℓ	ℓ<5m -100 ℓ≥5m 法長-2%										法長ℓ	ℓ<5m -100 ℓ≥5m 法長-2%				
1 共通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	4		盛土補強工 (補強土(テールアル ム)壁工法) (多数アンカー式補強 土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)	基準高▽	-50	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		1-2-3-4	1 共通 編	2 土 工	3 河 川 土 工 ・ 海 岸 土 工 ・ 砂 防 土 工	4		盛土補強工 (補強土(テールアル ム)壁工法) (多数アンカー式補強 土工法)	基準高▽	-50	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		1-2-3-4	誤植修正
						厚さt	-50										厚さt	-50				
1 共通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	5		法面整形工 (盛土部)	厚さt	※-30	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。		1-2-3-5	1 共通 編	2 土 工	3 河 川 土 工 ・ 海 岸 土 工 ・ 砂 防 土 工	5		法面整形工 (盛土部)	厚さt	※-30	施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。		1-2-3-5	誤植修正
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	4	2	既製杭工 (鋼管ソイルセメント 杭)	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。		3-2-4-4	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	4	2	既製杭工 (鋼管ソイルセメント 杭)	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。		3-2-4-4	諸基準類の改定にともなう
						根入長	設計値以上										根入長	設計値以上				
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	4	2	既製杭工 (鋼管ソイルセメント 杭)	偏心量d	100以内	全数について杭中心で測定。		3-2-4-4	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	4	2	既製杭工 (鋼管ソイルセメント 杭)	偏心量d	D/4以内かつ100以内	全数について杭中心で測定。		3-2-4-4	諸基準類の改定にともなう
						傾斜	1/100以内										傾斜	1/100以内				
											3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 補 装 工	6	4	舗面防水工(シート系床 版防水層)	シートの重ね幅	-20~+50	標準重ね幅100mmに対し、1施工箇所毎に目視 と測定により全面を確認		3-2-6-6-4	新規設定

出来高管理基準及び規格値(案)

令和5年版										令和6年版										改定理由						
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	概要				
5 道路 編	3 橋梁 下部	7 RC 橋脚 工	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支保便覧」による。		5-3-7-9	単位: mm	5 道路 編	3 橋梁 下部	7 RC 橋脚 工	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支保便覧」による。		5-3-7-9	単位: mm	諸基準値の改定にともなうアンカーボルトの計測位置の明確化		
						厚さ t	-20																			
						天端幅 w ₁ (橋軸方向)	-20																			
						敷幅 w ₂ (橋軸方向)	-50																			
						高さ h	-50																			
						天端長 l ₁	-50																			
						敷長 l ₂	-50																			
						橋脚中心間距離 Ø	±30																			
						支間長及び中心線の変位	±50																			
						支保部 アンカー ボルトの 箱抜き 規格値	計画高											-20~+10	支保部アンカーボルトの箱抜き規格値の平面位置は意匠の中心ではなく、アンカーボルトの箱抜きの中心で測定。アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを橋軸方向、橋軸直角方向で十字に切った2隅で計測。							
							平面位置											±20								
							アンカーボルト孔の鉛直度											1/50以下								
						支保部 アンカー ボルトの 箱抜き 規格値	計画高											-20~+10	支保部アンカーボルトの箱抜き規格値の平面位置は意匠の中心ではなく、アンカーボルトの箱抜きの中心で測定。アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを橋軸方向、橋軸直角方向で十字に切った2隅で計測。							
							平面位置											±20								
アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下																									

出来高管理基準及び規格値(案)

令和5年版										令和6年版										改定理由			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要	
5 道路 編	3 橋梁 下部	7 RC 橋脚 工	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支保便覧」による。		5-3-7-9	5 道路 編	3 橋梁 下部	7 RC 橋脚 工	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支保便覧」による。		5-3-7-9	諸基準値の改定にともなうアンカーボルトの計測位置の明確化	
						厚さ t	-20																
						天端幅 w ₁	-20																
						敷幅 w ₂	-20																
						高さ h	-50																
						長さ ℓ ₁	-20																
						橋脚中心間距離 ℓ	±30																
						支間長及び中心線の変位	±50																
						支保部アンカーボルトの箱抜き規格値	計画高										+10~-20						
							平面位置										±20						
アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下																						
支保部アンカーボルトの箱抜き規格値	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下																					
支保部アンカーボルトの箱抜き規格値	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下																					
支保部アンカーボルトの箱抜き規格値	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下																					
支保部アンカーボルトの箱抜き規格値	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下																					
支保部アンカーボルトの箱抜き規格値	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下																					
支保部アンカーボルトの箱抜き規格値	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下																					
支保部アンカーボルトの箱抜き規格値	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下																					
支保部アンカーボルトの箱抜き規格値	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下																					
支保部アンカーボルトの箱抜き規格値	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下																					
支保部アンカーボルトの箱抜き規格値	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下																					
5 道路 編	4 鋼橋 上部	5 鋼橋 架設 工	10	2	支保工 (ゴム支保)	据付け高さ注1)	±5	支保全数を測定。 B：支保中心間隔 (m) 上部構造部材下面とゴム支保面との接触面及びゴム支保と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。支保の平面寸法が300mm 以下の場合、水平面の高低差を1mm 以下とする。なお、支保を勾配なりに据付ける場合を除く。注1) 先固定の場合は、支保上面で測定する。注2) 可動支保の遊間 (La, Lb) を計測し、支保据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋支保便覧の規格値を満たすことを確認する。注3) 可動支保の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支保便覧参照。	5-4-5-10	5 道路 編	4 鋼橋 上部	5 鋼橋 架設 工	10	2	支保工 (ゴム支保)	据付け高さ注1)	±5	支保全数を測定。 B：支保中心間隔 (m) 上部構造部材下面とゴム支保面との接触面及びゴム支保と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。支保の平面寸法が300mm 以下の場合、水平面の高低差を1mm 以下とする。なお、支保を勾配なりに据付ける場合を除く。注1) 先固定の場合は、支保上面で測定する。注2) 可動支保の遊間 (La, Lb) を計測し、支保据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋支保便覧の規格値を満たすことを確認する。注3) 可動支保の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支保便覧参照。	5-4-5-10	誤植修正			
						可動支保の移動可能量 注2)	設計移動量以上																
						支保中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリート橋									±5	±(4+0.5×(B-2))						
							鋼橋														±5		
						水平 度	橋軸方向									1/300	1/300						
							橋軸直角方向																
						可動支保の機能確認 注3)	5									5							
可動支保の移動量 注3)	温度変化に伴う移動量計算値の 1/2以上	温度変化に伴う移動量計算値の 1/2以上																					